



和's YAMATO

(わづやまと)

2023
春号

- 写真で楽しむ群馬の自然
「群馬県牛伏山自然公園の桜」
- お客様紹介「プリンスグランドリゾート軽井沢
軽井沢プリンスホテルウェスト」様
- シリーズ群馬の芸術家「新井三呼」
- 郷土史跡めぐり「四戸の古墳群」
- 德川家康を襲う数々の危機
- 第二回 三河統一の危機
- 第三回 武田家の危機



「春の風」 F6号 須藤和之 画
ヤマトビオトープ園にて

写真で楽しむ 群馬の自然



牛伏山自然公園の桜
群馬県高崎市吉井町多比良4457-1

撮影 藤重 朋紀 氏 1979 コマーシャルフォトスタジオ創美社入社
略歴 1952群馬県利根郡みなかみ町生まれ 2001 フリー
1971 群馬県立渋川高等学校卒業 2010 写真集「上州路・一本桜」
1972 東京写真専門学院中退 2011 写真集「上州路」

山の形状が伏せている牛のように見えることから、牛伏山と呼ばれています。奥に見える城は展望台になっており、春には千本桜が山を彩ります。戦国時代、この場所には「一郷山城」がありました。永禄6年(1563)2月、武田信玄は西上州の侵略の手始めに、一郷山城を攻めました。城兵は武田軍の攻撃を防戦するため、山頂から大石を落としますが、真下の寺院を押しつぶして火災となり、城も全焼し、落城しました。(参考資料:展望台の案内板)

須藤 和之 Kazuyuki sutoh プロフィール PROFILE

表紙の絵「春の風」

1981年 群馬県前橋市生まれ
2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復日本画修了
2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠巒)(同2011~20)
2011年 中央電機商会カレンダー原画(2011~21) 2013年 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ・未来への対話」出品、群馬銀行創立80周年記念 収蔵作品「群馬の四季」制作、慶應義塾大学非常勤講師(2013-2020) 2014年 個展(日本橋三越本店) (同2017,20)
2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト) 2019年 高崎市タワー美術館トップランナーIII出品 2020年 上毛芸術奨励賞受賞 2022年 個展(株式会社ヤマト) 現在 日本美術院院友
OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL: <http://sutooo.net/>

和's YAMATO (わづやまと) 春号 2023 (第56号)

【和's yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

和's YAMATO 春号 2023年(令和5年)3月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室)群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター
ヤマトホームページ <https://www.yamato-se.co.jp/>



徳川、家康を襲う数々の危機

監修・歴史家・文学博士 安藤優一郎氏 文・写真・木下直也

第二回 三河統一の危機 相次ぐ家臣の離反

徳川家康は戦国時代を終わらせ、泰平の世・江戸を開いた英傑です。しかし、その七十余年にわたる生涯は、度重なる危機の連続でした。家康が徳川幕府を開くに至るまでに直面した数々の危機に着目し、絶体絶命の窮地をどのように乗り越えていったかを紹介します。



徳川家康像（愛知県岡崎市・岡崎公園内）

今川家の人質となっていた妻子を奪還

永禄3年（1560）、桶狭間の戦いで今川義元が敗死した後、元康（家康）は今川家の支配から離脱する動きを見る。翌年の永禄4年（1561）2月に清州城で信長と会談し、和睦。信長と同盟を結ぶことは、今川家からの離反を意味し、同年4月に今川方の三河牛久保城を攻撃する。今川家は、元康の離反を防ぐために、元康の妻子を人質に取っていた。それにもかかわらず今川家を攻撃したのは、義元の妹が嫁いだのだ。



清州城
(愛知県清須市)

天正10年（1582）、信長の後継者を決める「清州会議」が行われた。慶長15年（1610）に家康が名古屋城築城を命じた際、清州城は廃城となり、城下町は名古屋に移転となった。平成元年に再建整備された。



福井県立二乗谷朝倉氏遺跡博物館（福井県福井市）

でいる鶴殿長照を攻め、長照の子を生け捕りにした後、今川家に人質となっていた築山殿と信康、亀姫と人質の交換を持ちかけるつもりだったからだ。この策は的中し、三人は無事に元康の居城である岡崎城に戻ることができた。永禄6年（1563）、元康は家康に改名し、名実ともに今川家と訣別、家康の嫡男・竹千代と信長の娘・徳姫は婚約し、信長との同盟を強化するのだった。



織田信長・今川義元像
(名古屋市緑区・桶狭間古戦場公園内)

三河国は今川義元が支配していたが、義元亡き後、その支配体制は弱体化していた。家康は三河の国人を調略して今川氏真から離反するように促し、家康による三河統一が間近となつた。しかし、永禄6年（1563）9月に、大規模な一向一揆が勃発し、三河国は再び動搖する。一向一揆とは、真宗本願寺派の門徒による武装蜂起のことである。農民だけでなく武士も加わり、門徒の本多正信、今川家との断交に反対する家臣、家康に反発する松平庶家など、松平家の家臣の一部も一揆に加担した。一揆の発端は、家康による寺院からの兵糧米徵収であった。従来、寺院は特権で徵税を免れており、家康はその既得権を抑え、支配体制を強化しようとしたのだった。

永禄6年11月、一向一揆は岡崎城に攻め寄せた。家康自身が先頭に立って戦うも、家康は銃弾を受ける事態に陥り、危機的状況となつた。しかし、家康は粘り強く家臣を説得し、一揆勢力を切り崩すことに成功、鎮圧することができた。

今川氏にかわり織田信長が存在感を示し、戦国時代の重要な転換点となつた桶狭間の戦い。現在、桶狭間として整備されている一帯は戦の中心地だった。



本證寺
(愛知県安城市)



福井県立二乗谷朝倉氏遺跡博物館（福井県福井市）

第三回 武田家との死闘 十年余の危機

家康の遠江侵攻

永禄9年（1566）、家康が苗字を松平から徳川に改め、三河守として三河支配を盤石にした頃、甲斐の武田信玄は今川氏真の本拠地である駿河に侵攻しようとしていた。信玄は、相模の北条氏康、駿河の今川義元と三国同盟を結んでいたが、義元が桶狭間の戦いで敗死してからは今川氏の勢力が衰えたため、信玄は駿河の併合を企んでいた。永禄10年、家康と信玄には、今川領を分割領有する密約があったとされ、信玄は駿河に、家康は遠江に侵攻する手はずだったという。

翌年の永禄11年12月、信玄は甲府から大軍を率いて駿河に向かい、今川軍を撃破する。家康は遠江に進軍した際、武田軍の追撃から逃れた今川氏真が

遠江の掛川城に入ったため、家康は氏真を包囲する。そして、氏真と家康は和睦した。一方、信玄は駿河に侵攻したもの、敵対する北条氏康が今川氏の遺臣を支援し、制圧することが出来なかつた。それは家康が氏真を征伐せずに、和睦したことが原因と考えた信玄は、家康に対する不信感を募らせた。

三方ヶ原の戦いで敗戦

永禄12年（1569）、信玄は駿河に再侵攻して今川領の大半を占領した。翌年には北条氏と和解して同盟を結び、遠江侵攻を日論む。家康は信玄の遠江侵攻への備えと、遠江の支配を盤石にするため、居城を岡崎から浜松に移した。武田・北条同盟の復活により、元亀3年（1572）1月、北条氏と上

薩埵峠（静岡市清水区）



武田信玄像（JR甲府駅前）

長篠設楽原古戦場
馬防柵再現地（愛知県新城市）



永禄11年12月、甲府から駿河に向けて進軍した武田軍は、薩埵峠で今川軍を撃破し駿河に侵攻した。（写真提供：静岡県観光協会）



武田軍の騎馬隊は精銳を誇り、その攻撃力で敵陣を撃破した。織田・徳川連合軍は、長篠の合戦の激戦地となつた長篠設楽原古戦場（ながしのせんじょう）に馬防柵を2kmに渡つて築き、武田騎馬隊の侵入を防いだ。

掛川城（静岡県掛川市）



立たされたが、同年4月に信玄が死去したため形勢は逆転、家康は存亡の危機を脱した。家康は同年7月に武田軍の支配下にあった三河の長篠城を攻めて同城を奪還するが、天正3年（1575）4月に信玄の跡を継いだ武田勝頼が長篠城を攻め囲む。徳川方は籠城したが、兵糧攻めにあい落城の危機に瀕していた。家康は長篠城に援軍を送るが、兵数が足りず勝ち目がないため、信長に援軍を求め、同年5月、信長軍が到着し武田勢を擊破した。

長篠の戦いで敗れた武田軍は、勢いが衰えたとはいえ、遠江の東部を支配していたため、家康は遠江の平定を目指し、武田軍との戦いを続けていく。

元亀3年10月、信玄の本隊は駿河から遠江に侵攻し、徳川方から武田方に寝返る遠江の領主が続出した。同年12月、武田軍は浜松城に向かって進軍し、家康は籠城したが、武田軍は浜松城を包囲することなく、城の北側に位置する三方ヶ原台地の方向に進み、戦意を現わさなかった。それを見た家康は勝機があると判断し三方ヶ原に向けて出陣した。しかし武田軍は台地の高所で家康を待ち構えており、徳川軍は大敗を喫し、家康は辛うじて浜松城に逃げ帰った。

（次号に続く）

家康のしかみ像
(愛知県岡崎市・岡崎公園内)



信玄の死で危機を回避

三方ヶ原の戦いで大勝した信玄は、三河に向けて西進した。それに呼応して元亀4年（1573）3月には室町幕府の将軍・足利義昭も挙兵し、信長・家康包围網が敷かれる。家康は窮地に

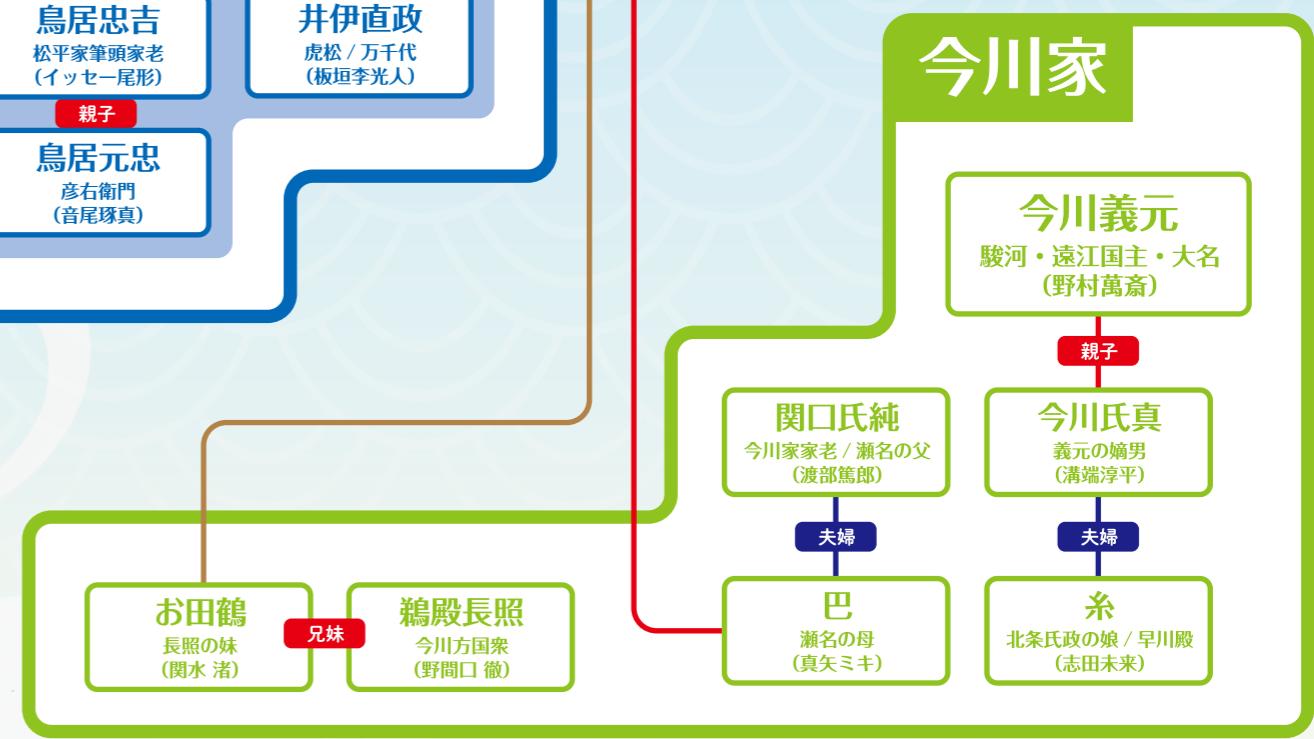
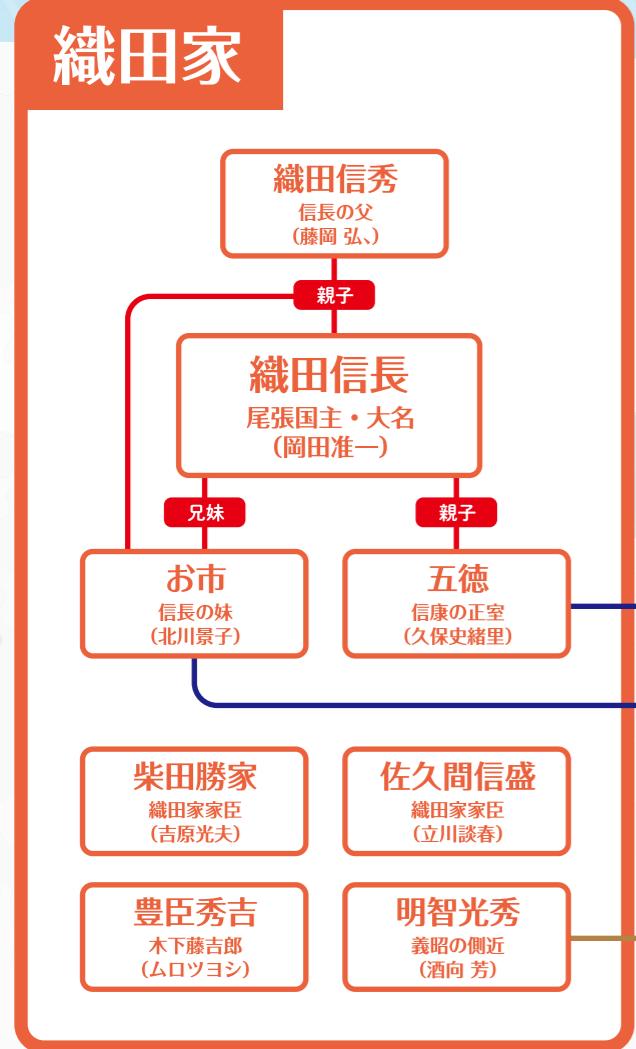
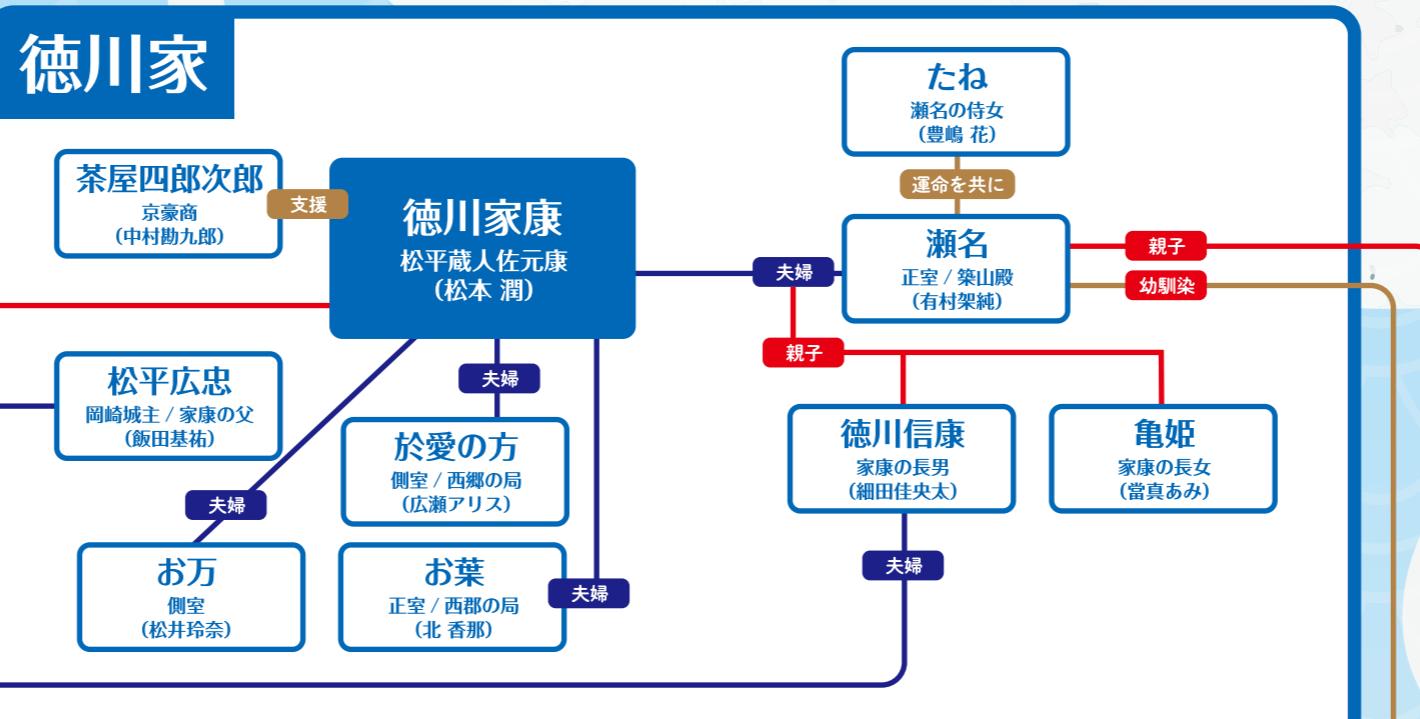
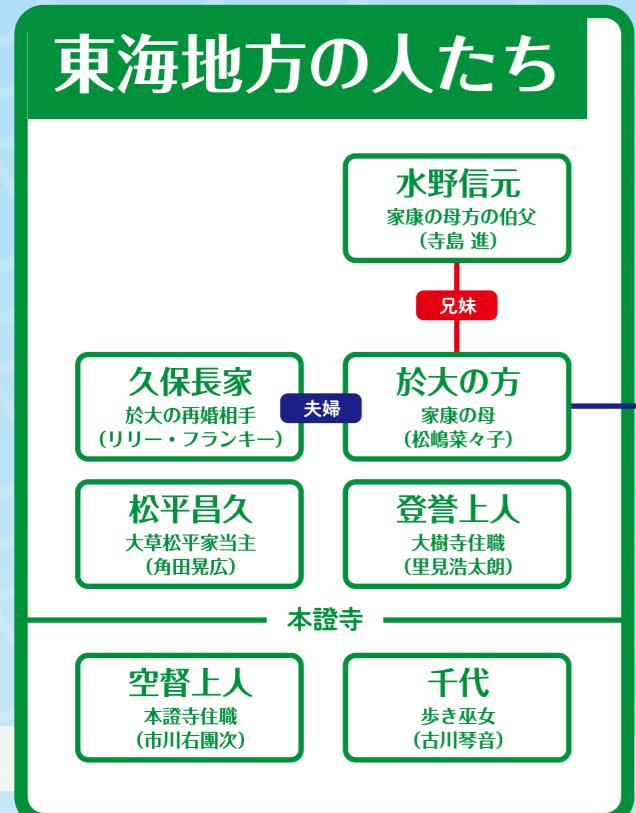
三方ヶ原の戦いで敗北した家康は、自戒の念を込めて、顔をしかめた苦渋の表情の自画像を描かせた。このしかみ像は自画像を基に制作された石像。

（写真提供：掛川市）

今川氏は文明年間（1469～87）に掛川城を築城し、遠江の重要な拠点としての役割を持っていた。天正18年（1590）に徳川家康が関東に移封した後は、山内一豊が掛川城に入城し大規模改修に着手、石垣を整備して天守を設けた。

全体相関図と 主な登場人物

(カッコ内は演者)



神流川古戦場跡

群馬県高崎市

滝川一益

神流川古戦場跡の碑（群馬県高崎市）

天正10年（1582）3月、武田氏の滅亡後、その領地は織田氏が支配し、上野国は織田家の滝川一益が領有した。それも束の間、同年6月2日に起こった本能寺の変で織田氏は動搖し、敵対していた北条氏直は上野国に進軍、6月19日に神流川で衝突した（神流川合戦）。神流川合戦は北条氏直が大勝し、織田氏の関東支配が瓦解、一益は箕輪城に撤退後、本国の伊勢に帰国する。

神流川合戦の後は、武田氏旧領をめぐって徳川、北条、上杉氏で上野・甲斐・信濃の領有争いが起ころ（天正壬午の乱）。徳川家康と北条氏直が衝突し、北条軍は大敗（黒駒合戦）、徳川氏と北条氏は和睦するが、信濃領をめぐり真田氏と上杉氏が結託して徳川氏に対立（上田合戦）。徳川氏は上杉領、真田領を除く信濃と甲斐の全域、北条氏は上野南部を領有した。



信長から上野国と信濃国的一部分を与えられた一益は、天正10年2月、武田氏討伐のため本国の伊勢から出陣し、厩橋城に入り領国統治に着手した矢先に本能寺の変が伝わった。（国立国会図書館蔵）



徳川家康関係年表

年月	年齢	事項
弘治 3年(1557)	16才	今川家一門関口義広の娘を娶る。後に元康と改名。
永禄 元年(1558)	17才	元康、三河守部城の戦いで初陣を飾る。
3年(1560) 5/19	19才	桶狭間の戦いで今川義元討死。
5/23		岡崎城に戻る。今川勢撤退を受けて西三河の平定を開始。
4年(1561) 3月	20才	尾張清洲城主織田信長と同盟を結ぶ。東三河の平定を開始。
		今川勢と戦闘状態に入る。
5年(1562) 2月	21才	三河の上之郷城主鶴殿長照を討ち、2人の子を捕虜。
		駿府で人質となっていた正室築山殿、嫡男竹千代、長女亀姫と交換。
6年(1563) 3月	22才	竹千代(後の信康)と信長娘徳姫婚約。
7月		家康と改名。秋より一向一揆勃発(～翌年2月末に和睦)。
9年(1566) 5月	25才	三河牛久保城陥落により三河統一完了。
12/29		勅許による徳川改姓、三河守叙任。
11年(1568) 9/26	27才	信長、足利義昭を奉じて入京。
12月		遠江の今川領侵攻開始。武田信玄、駿河の今川領侵攻開始。
12年(1569) 5/6	28才	今川氏真と和睦して掛川城から退去させる。遠江をほぼ平定。
元亀 元年(1570) 4/22	29才	上京していた家康、信長とともに越前の朝倉領に攻め入るも、近江小谷城主浅井長政の裏切りに遭い、命からがら京都に帰還。
		織田・徳川連合軍、浅井・朝倉連合軍を姫川の戦いで破る。
6/28		居城を浜松に移す。
6月		上杉謙信と同盟締結。
10月		上杉謙信と同盟締結。
3年(1572) 10/3	31才	信玄、駿河から遠江の徳川領に攻め入り諸城を陥落。別動隊は三河侵攻。
12/22		浜松城を出撃した徳川勢、三方が原で惨敗。
天正 元年(1573) 4/12	32才	信玄病没。
		足利義昭、信長に降伏。室町幕府滅亡。
7/18		朝倉氏滅亡。
8/20		浅井氏滅亡。
8/28		三河長篠城奪還。
9月		武田勝頼、遠江高天神城を奪取。
2年(1574) 6月	33才	武田勢、三河足助城を奪取。家康を三河吉田城に追い込む。
3年(1575) 4月	34才	長篠城を包囲するも、織田・徳川連合軍に惨敗。
5/21		家康、武田勢に奪取された遠江諸城の奪還を開始。
7年(1579) 8/29	38才	正室築山殿を殺害。嫡男信康に自害を命ず。
9年(1581) 9/15	40才	高天神城を奪還して遠江平定。
10年(1582) 2/18	41才	浜松城を出陣して駿河の武田領に攻め入る。2/21、駿府に入る。
3/11		織田勢に追い詰められた武田勝頼自刃。武田氏滅亡。
3/29		信長より駿河国を与えられる。
4/21		信長、安土城凱旋。
5/15		戦勝を賀するため安土城に赴く。
6/2		逗留中の和泉国堺で本能寺の変を知る。
6/4		伊賀越えにより岡崎に戻る。
6/13		羽柴秀吉、山崎の戦いで明智光秀を破る。
6/19		尾張鳴海まで兵を進めるも、秀吉からの報せを受けて浜松城に戻る～甲斐侵攻を開始。
7/9		家康、甲府に入る。
8/12		対陣中の北条勢を黒駒で破る。
10月末		北条勢と和睦。同盟関係となる。
12/4		浜松城に戻る。
11年(1583) 4/19	42才	秀吉、賤ヶ岳で柴田勝家を破る。
4/24		勝家自害。
5月		岐阜城主織田信孝自害。伊勢長島城主滝川一益降伏。
8月		家康次女督姫、北条氏直に嫁ぐ。
9/1		秀吉、大坂城築城工事開始。

四戸の古墳群

（群馬県吾妻郡東吾妻町）

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員

田村 真



参考文献・図版出典
・群馬県古墳総覧
・公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書第六六九集四戸の古墳群

② 四戸II号墳

③ 四戸I号墳

④ 四戸I号墳接写

四戸の古墳群は、東吾妻川の北岸に位置する。標高八〇三mの岩櫃山が背景にある。

四戸I号古墳（岩島村十九号古墳）

（写真③）は、直径約十・四mの円墳で、長さが約六mの無袖型横穴式石室が南北に開口しています。出土遺物には、管玉、銀環、直刀、埴輪片などがあります。道路沿いの一段高くなつた場所にあり、「四戸の古墳群」の標柱がたつています。

四戸の古墳群の発掘調査は、昭和三九年（一九六四）と昭和四二年（一九六七）に群馬大学により行われ、平成三〇年（二〇一八）には、古墳群の北側に計画された上信自動車道吾妻西バイパス建設に伴い群馬県埋蔵文化財調査事業団が、三基の古墳の調査をしました。その結果、四戸の古墳群は石室構造や出土遺物から六世紀から七世紀頃に築造されています。

四戸I号古墳（岩島村十九号古墳）

（写真③）は、直径約十・四mの円墳で、南北に開口しています。出土遺物には、管玉、銀環、直刀、埴輪片などがあります。道路沿いの一段高くなつた場所にあり、「四戸の古墳群」の標柱がたつています。

四戸の古墳群は、農耕地や民家に囲まれていますが、道路沿いで見やすい位置にあります。北側には現在上信自動車道吾妻西バイパスが建設されています。

ここでは、四戸の古墳群の中から道路沿いで石室が見やすいものについて紹介したいと思います。

本古墳群は、農耕地や民家に囲まれていますが、道路沿いで見やすい位置にあります。北側には現在上信自動車道吾妻西バイパスが建設されています。



四戸III号古墳（岩島村十三号古墳）
（写真①）は、直径約十五mの円墳で、長さ約三・五mの南東方向が入り口の無袖型横穴式石室があります。出土遺物には、大刀や埴輪、土器などがあります。大きな天井石が残る石室が周囲からもよく見え石の組み方もよくわかります。

四戸II号古墳（岩島村十六号古墳）
（写真②）は、直径約十・六mの円墳で、長さ約五・三mの南西方向が入り口となる両袖型横穴式石室があります。土器や馬具などが出土しています。墳丘の上に小さな石の祠が二つ（写真②）立っていますので、それを目印にするとすぐに見つけることができます。



① 四戸III号墳接写

周辺の吾妻川南岸には生原・植栗・岩井・下郷・川戸古墳群が、北岸には小川・市城・下之町古墳群が存在しています。

今回紹介した四戸古墳群は県道五八号線「厚田」の信号から西に向かい、厚田簡易郵便局の手前を右折した先にあります。

四戸まで来て、川幅が狭くなつた四戸から南下して大戸・須賀尾経由で信濃へ至るルートと、高崎・安中から榛名山南西麓を抜けて吾妻川に至り、さらに北上して四万方面に向かうルート上にあります。当時の交通の要衝となる場所であったことが、四戸遺跡のような大規模集落や四戸の古墳群の成立につながったと推定されます。東吾妻町全体で古墳は二〇二基確認されていますが、四戸の古墳群を含む旧岩島村の古墳が五基と多く、これも交通の要衝として発展したからと考えられます。

三島にあり、北側に吾妻川が西から東に流れ、すぐ東を温川が南から北へ流れています。西方には白根山や浅間山が、南方には榛名山があります。本古墳群を南から臨むと古墳群の背景に吾妻川の北岸に位置する標高八〇三mの岩櫃山が望めます。

本古墳群は、農耕地や民家に囲まれていますが、道路沿いで見やすい位置にあります。北側には現在上信自動車道吾妻西バイパスが建設されています。

三島にあり、北側に吾妻川が西から東に流れ、すぐ東を温川が南から北へ流れています。西方には白根山や浅間山が、南方には榛名山があります。本古墳群を南から臨むと古墳群の背景に吾妻川の北岸に位置する標高八〇三mの岩櫃山が望めます。

本古墳群は、農耕地や民家に囲まれていますが、道路沿いで見やすい位置にあります。北側には現在上信自動車道吾妻西バイパスが建設されています。

新井三呼

美術研究家 染谷滋

色彩の美しさに魅せられ、内なる声に筆を走らす

朱色に燃える新作

年が明けて間もない頃、新井三呼のアトリエを訪ねた。作品を見るのも作者と会うのも初めてだったが、そのアトリエには来たことがあった。その建物はかつてある作家を顕彰する記念館だったからだ。内部は幾らか改築されてはいたが、展示室の高い天井はそのままアトリエとして再利用するには十分な広さだった。そのあちこちに新井の作品が置かれていた。

事前の資料で見ていたとおり、色彩の美しい作品群だった。感覚のままに絵の具を置いて筆を運ぶのだろう、私には水の流れや風の動きを感じさせてくれたが、色と形が交錯して何かの形態を思わせる作品も数多くあつた。新井によると、解釈は見る人に委ねたいので、思わずぶりな作品名は付けていないという。

奥のコーナーにはイーゼルが置かれ、新作が置かれていた。朱色のような温もりのある赤い色彩が画面全体に塗られ、もともとあつたと思われる青や黄色の色彩が、今にも飲み込まれそうに見えた。それはまるで燃え盛る炎のようだった。

新井三呼は一九七四(昭和四九)年七月二三日、前橋市上泉町に生まれた。本名は新井美紀。県立前橋女子高校を一九九三(平成五)年に卒業。多摩美術大学絵画科に入学し油画を専攻した。

一九九七(平成九)年に多摩美術大学を卒業してから新井は、絵を描き続けてはいたが発表することはなく、長い沈黙が続いた。

その沈黙を破ったのは二〇〇八(平成二〇)年のことだ。当時住んでいた新潟で、多摩美術大学校友会の新潟支部が「新潟多摩美展」を立ち上げることになり、新井を見つけ出したからだ。大学の先輩たちが背中を押し、その才能を眠らせてはおけなかつたに違いない。

新潟多摩美展は、最初長岡市のギャラリー・沙蔵で始まり、二〇〇九年からは新潟市美術館市民ギャラリーに移った。新井は二〇一五年まで参加しているが、この頃の名は「佐藤美紀」である。

二〇一二年には新潟市内のギャラリー・ゆうむで初めての個展も開催。以後、年に数回のペースで頻繁に作品發表を続けるようになる。その活動は新潟市や長岡市はじめとして、見附市、柏崎市、村上市など新潟県内各都市が集まっている。

胎内市美術館での展覧会名は「ARA MIKI MIKI」と題されていたが、「O-O」は新井が気に入っている言葉だ。それは地に及んだ。

二〇一八(平成三〇)年一〇月、胎内市美術館で二ヶ月にわたる規模の大きい個展を開催。このときから名を「新井美紀」に戻した。個展会期中には「新井美紀の世界を語る」と題した座談会も開かれ、新潟県内の美術関係者五名が集まっている。

胎内市美術館での展覧会名は「ARA MIKI MIKI」と題されていたが、「O-O」は新井が気に入っている言葉だ。それは



帰郷、新井三呼と改名

二〇二〇(令和二)年夏、新井は群馬に帰郷した。現在のアトリエの建物に出会ったのがきっかけだったようだ。

三度目の改名は新井にとって必然だったに違いない。本名の「美紀」を「三呼」に替えた。「何となくです」と新井は語り「北斎は何十回も改名した」とはぐらかされたので、今後も度々改名することがあるかも知れない。

「呼」という字には「よぶ・名付ける」という意味のほかに、「息を吐く」という意味もある。これも

新井の作品を特徴付けるもので、色彩画的魅力に心酔し、その透明感のある色彩の美しさを追求する姿勢そのものだ。

新潟時代の後半には東京での個展も試みている。二〇一七年に銀座の画廊るたん、二〇一九年には表参道のギャルリー412と銀座のシロタ画廊。どことも歴史のある鑑識眼を持った画廊で、新井の作品が認められてのことだけに違いない。

また、デンマークの家具ブランド「フリッツ・ハンセン」や、同じくデンマークのオーディオブランド「Bang & Olufsen」とのコラボレーション展示も新潟市内で行っている。

見守り続けたい今後

新井は帰郷する直前、縁あつてある不動社に不動明王の絵を奉納した。

「三呼は巫女に通じますね」と聞くと「それは後になつて気付きました」との返事。色彩が秘めた声に耳を傾けて作品を生み出す新井のスタイルは、まさに巫女だと私は思った。

表現者である新井にはぴつたりだ。

「不動明王の炎は迦楼羅炎と呼ばれ、この世の不淨なるものを焼き尽くすという。インド神話に登場する炎に包まれた神の鳥ガルダが元となつていて。アトリエで見た朱色に燃える新作は、迦楼羅炎そのものだったに違いない。

アトリエには手作りの棚が至る処に置かれ、様々な蔵書がぎっしりと詰め込まれていた。それは新井の知的好奇心を伝えると同時に、独りの時間を大切にしている様子が伺えた。

別に数多くのドローイングも中央のテーブルに積まれていて、大作と併行しながら、小品やドローイングも旺盛に制作している様子が伺えた。新井はガラス絵も得意としているらしいが、本棚の上には枠を使ったポックスタートも置かれ、その才能の豊かさを証明していた。

今回のヤマト本社ギャラリーでの個展は、新井の群馬での初個展となるだけでなく、「三呼」と改名して最初の作品発表でもある。新井三呼が今後どのような作品を生み出していくのか、同じ群馬県人として見守り続けたいものだ。

新潟でのデビューと活動

略歴 新井三呼 MIKO ARAI

1974	7月13日、前橋市上泉町に生まれる
1993	群馬県立前橋女子高等学校卒業
1997	多摩美術大学絵画科油画専攻卒業
2012	ギャラリー・ゆう(新潟市)個展「佐藤美紀」の名で発表を始める
2013	今井美術館(見附市)個展「万有意志」
2014	ギャラリー十三代田長兵衛(柏崎市)個展
2015	ギャラリー&喫茶ばらーれ(村上市)個展
2016	ギャラリー・mu-an(長岡市)「ガラス絵展」
2017	遊文舎(柏崎市)個展 二代目アートサロン環(新潟市)「0即展」
2018	ギャラリー・みつけ(見附市)「油彩展」と「紙の作品展」連続個展 画廊るたん(銀座)個展 新潟絵屋(新潟市)個展 胎内市美術館(胎内市)
2019	「佐藤美紀」に改名 Galerie 412(表参道) 「ARA MIKI OIL SPIRIT on glass and paper」「ARA MIKI OIL SPIRIT on paper」 シロタ画廊(銀座)「ARA MIKI OIL SPIRIT」 中西口先人館(新潟市)「ARA MIKI OIL SPIRIT」 新潟伊勢丹(新潟市)FRITZ HANSEN(北欧家具「ハンド」と「ヒボレーショップ」展示) Bang & Olufsen(北欧オーディオ「ハンド」と「ヒボレーショップ」展示) カタヤマエイト(新潟市)「ARA MIKI OIL SPIRIT & FRITZ HANSEN」FRITZ HANSENの家具や照明器具とのヒボレーショップ展示 帰郷 群馬県内にアトリエを構える
2020	

プリンスグランドラゾート軽井沢／軽井沢プリンスホテル ウエスト様

長野県軽井沢町



軽井沢プリンスホテル ウエストの外観

既存客室のリニューアルに加え、MICE(企業の会議・研修、展示会等のビジネスイベントの総称)関連施設(2020年7月開業)と新客室棟、温泉棟(2021年4月開業)を新設し、「MICE」「ファミリー」「ワーケーション」をテーマとしたホテルに生まれ変わりました。

軽井沢プリンスホテル ウエストは、2021年4月に新客室棟、温泉棟を新設しました。新客室棟「PRE-MIUM WING」(全70室)は、客室や廊下に軽井沢の林をイメージした木々や葉のデザインを配し、軽井沢の自然を感じられる空間となっています。また、新設温泉棟の「MOMIJI HOT-SPRING」は宿泊者専用の施設です。秋には鮮やかな紅葉が映える「もみじ山」を望む露天風呂や、四季の移ろいを感じる大きなガラス窓が特長となっています。建設プロダクトのヤマトは、新客室棟と新設露天風呂の設備工事に携わらせていただきました。



新客室棟のデラックステラスツイン



新客室棟からつながる温泉棟「MOMIJI HOT-SPRING」

軽井沢プリンスホテルウエスト 施設概要	
所在地	〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢
お問い合わせ	0267-42-1111
客室	ホテル棟243室 コテージ162棟
レストラン	オールディーデイニング・和食・中国料理
その他施設	宴会場・結婚式場・コンビニエンスストア



露天風呂

お客様
インタビュー

プリンスホテル&リゾーツ

軽井沢地区副総支配人
軽井沢ホテル宿泊部門支配人

竹鼻 宏治 様



自然を感じる客室棟と温泉棟を新設

ては、フル稼働している状況です。

軽井沢プリンスホテル ウエストの温泉施設は、開放感がある点がセールスポイントです。露天風呂のある場所はもみじ山と呼ばれるもみじがたくさんある小山があり、「モミジ ホットスプリング」という名称の由来になりました。紅葉時期の露天風呂は一面紅葉色に染まり、その景色は息をのむほどの素晴らしい景色です。お客様にも是非、体感していただきたいと思います。

軽井沢プリンスホテルウエストは、2020年7月にレストラン棟、バンケットエントランスとロビーを新設し、2021年4月には新客室棟、温泉棟を新設しました。従来は、ゴルフ、テニス、スキーなどのレジャーを楽しむお客様が主体でしたが、温泉が設置されたことにより静養目的でご利用いただけるようになりました。温泉ができた年が新しくなりました。温泉ができた年が新型コロナウィルス感染症の拡大が進んでいた時期でしたので、感染対策が取られ個人のお客様が動き出し始めた2022年後半から今年にかけ

プリンスグランドラゾート軽井沢の歴史

年	歴史
1921年	観翠楼(のちのホテル観翠)営業開始
1923年	グリーンホテル営業開始
1929年	軽井沢千ヶ滝遊園地(テニスコート等)営業開始
1936年	押立山ホテル 完成
1937年	軽井沢大観樓 完成
1947年	旧朝香宮家の別荘を取得し、「プリンス・ホテル」として営業開始
1949年	晴山ホテル(現軽井沢プリンスホテルウエスト)営業開始
1956年	軽井沢スケートセンター 営業開始
1961年	南軽井沢ゴルフ場(現軽井沢72ゴルフの一部)営業開始
1966年	日本初の人工降雪スキー場として晴山スキー場 営業開始
1968年	晴山ホテルに紅葉山Aタイプコテージ完成(コテージ営業の最初のタイプ)
1973年	軽井沢プリンスホテル本館(現イースト)営業開始
1977年	南軽井沢ゴルフ場(現軽井沢72ゴルフの一部)営業開始
1982年	晴山ゴルフ場 営業開始
1984年	軽井沢プリンスホテルスキー場 営業開始
1995年	軽井沢・ザ・プリンス・ヴィラ軽井沢、軽井沢プリンスホテルイースト、ウエストは、それぞれのホテルによって、客層が異なります。ウエストは大規模な宴会場があるので国際会議も開催できますし、ご家族連れやスポーツをする「ワーケーション」など、多岐にわたり楽しむお客様、温泉を楽しむお客様、「休暇」を楽しみながら「仕事」をする「ワーケーション」などを融合させています。新時代に対応したプリンスグランドラゾート軽井沢のご利用をお待ちしております。
1997年	軽井沢浅間プリンスホテル 営業開始
2005年	コテージの一部を改装し「プリンス森のドッグヴィレッジ」営業開始
2007年	軽井沢浅間プリンスホテル「森のホットスプリング＆スパ」新設
2008年	プリンスホテル初のゲストハウスクエディング「フォレスター軽井沢」開業
2014年	「貸別荘機能」と「ホテルサービス」を融合した「ザ・プリンス・ヴィラ軽井沢」営業開始
2019年	会員制ホテル「プリンスバケーションクラブ 軽井沢浅間」開業
2020年	軽井沢プリンスホテルウエストバンケットエントランス、バンケットロビー、バンケットテラス「KURUMI」、レストラン棟「ALL DAY DINING LOUNGE/BAR Rose」(中国料理 桃李)新設
2021年	温泉棟「MOMIJI HOT-SPRING」新設